

グローバル公共財としての地球秩序に関するシミュレーション分析

吉田 和男 (京都大学 経済学研究科 教授)

【概 要】

冷戦の終結以降、テロや紛争、環境破壊、通商摩擦、金融危機といった世界の秩序を脅かす諸問題に対する多国間の協調に基づいた解決策の確立が重要な課題となっている。既存の経済学・国際政治学は問題毎にそれぞれの方法論で解決策を提示してきた。しかしこれらの問題群は複雑に相互に関連しているため、各個の処方箋を単純に積み上げるだけでは不十分であり、総合的な分析が求められている。その足がかりになると思われるのがグローバル公共財（GPG）の概念である。これは従来の公共財概念をその便益が地球規模に及ぶ財に適用しうよう拡張したものであり、先述の問題群を統一的に捉えることを可能とする。つまりいずれの場合も課題は GPG の供給不足を解消するメカニズムの構築であるといえる。過去十年間 - 特に最近四年間は基盤(A)での研究を通じて - GPG 概念によって既存の諸理論を整理しコンピュータ・シミュレーションを主要なツールとして様々な分析を行ってきた。本研究はこれらの研究蓄積を基礎として、GPG 概念を基盤とする新たなシミュレータ（GPGSIM）を構築し、世界規模での秩序形成に必要なメカニズムを解明することを目指している。

【期待される成果】

本研究では上述の問題群をグローバル公共財（GPG）の概念により統一的に捉え、問題相互の連関を考慮したモデルを構築し、コンピュータ・シミュレーションによる分析を行うわけであるが、これにより従来の問題ごとの個別的検討では困難であった総合的な分析が可能となり、新たな視点からの政策提言が得られるであろう。また本研究で構築される GPG 概念に基づいたシミュレータ（GPGSIM）は、同種の相互連関のある問題群を総合的に分析するためのシミュレーション基盤として、将来の当該分野の研究を促進するものと思われる。さらにシミュレーション分析の結果からのフィードバックによって既存理論の発展も期待される。

【関連の深い論文・著書】

吉田和男『安全保障の経済分析』日本経済新聞社，1996年．

吉田和男『冷戦後の世界政治経済』有斐閣，1992年．

【研究期間】 平成 17 ～ 21 年度

【研究経費】 89,900,000 円

【ホームページ】 な し